

[様式2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

御提案書	
技術分野	② (「技術提案募集の内容」の該当番号を記載願います)
御提案件名	缶へのビール充填技術を利用した汚染水の貯蔵
御提案者	赤尾 修二
<p>1. 技術等の概要 (特徴、仕様、性能、保有者など)</p> <p>汚染水を 350ml 又は 500ml のアルミニウム缶に充填する工場を建設し、その工場で汚染水をアルミニウム缶に充填し、段ボール箱に詰め、トラック等で別途建設した貯蔵庫に移送し、保管する。</p> <p>既にあるビール工場の技術、仕様を利用し、新たな技術開発はほとんど必要がないと思われる。</p> <p>当手法によるメリットは以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型工場又は複数の工場を建設することで、大量の汚染水を処理することが可能。 ・アルミニウム缶は、β線が遮蔽可能であり、制動X線の発生も抑えられると思われる。 ・アルミニウム缶の耐久性等に関する情報は、ビールメーカー等が保有していると思われる。 ・貯蔵庫には放射線の遮蔽を除くと特殊な設備は不要と考えられる。 ・貯蔵庫も同時に複数の貯蔵庫を建設することにより、大量の汚染水を貯蔵することが可能。 ・貯蔵庫に保管することで、風雨を避け、アルミニウム缶の劣化を防ぐことが可能。 ・貯蔵庫にテレビカメラ等を設置することで、監視においては最小限の放射線暴露に抑えることが可能。 ・万が一、汚染水が漏れたとしても、小分けしていることで最小限の量で済み、貯蔵庫内であることから、環境中への漏出を防ぐことが可能。 ・汚染水をアルミニウム缶に充填し、貯蔵へ移送することから、貯蔵庫の設置場所に関する距離的制限が少ない。 	
<p>2. 備考 (以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発・実用化の状況 (国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む) ・開発・実用化に向けた課題・留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・充填作業等者の確保と放射線に関する教育を行うこと。 ・充填作業及び充填作業に支障をきたしたときの労働者の暴露を最小限にすること。 ・故障時の機器の交換作業における暴露を最小限にする方法を事前に準備すること。 ・ガンマ線対策。 ・その他 (特許等を保有している場合の参照情報等) 	